

第52回災害対策本部員会議での知事の主な発言

1. 会議冒頭の発言

- 今般の地震では、避難生活が長期化しており、今後、暑さが本格化していくと避難所での熱中症の発生が懸念される。

このため、災害時応援協定を締結している石川県冷凍空調設備工業会にご協力いただき、5月23日から避難所に冷房設備の設置を進めてきた。設置要望があった輪島市、珠洲市の避難所全てに、先週のうちに機器の設置が完了した。来週早々には、電気工事も完了し、すべての避難所で冷房の稼働が可能になる。リースで設置するので、カビの問題等が出ないように、チェックをお願いしたい。

また、気温や湿度が高くなることにより、熱中症のみならず、食中毒の発生も懸念されることから、先週末、改めて、市町の担当課に通知した。

市町におかれては、引き続き、避難者の健康管理に万全を期していただきたい。

加えて、被災家屋や草むらでの作業においては、ダニやウイルスによる感染症への注意も必要である。暑い中ではあるが、作業される際は、マスクや長袖、長ズボンの着用をお願いしたい。

作業後の発熱、発疹などの症状がある場合は、感染症の恐れもあることから、早めに医療機関を受診していただきたい。

あわせて、災害ボランティアの皆さんにおかれても、熱中症対策としてこまめに水分補給や休憩をとっていただくとともに、感染症対策として肌の露出の少ない服装で活動いただくなど、くれぐれも体調管理に気をつけて欲しい。

そして、これらのことについて、被災者の皆さんや災害ボランティアの皆さんに周知が行きわたるよう、しっかりと広報してほしい。

- 被災地では地元の工事業者が不足しており、事業者が各種補助金の申請を行うにあたり、必要となる見積書が取れない状況になっていて、大きな課題となっている。

このため、本日より、県と中小機構が連携し、被災事業者と地元以外の工事業者のマッチングを行う事業を開始した。

具体的には、中小機構が運営する「復旧・復興マッチングサイト」に、事業者が見積徴収や施設修繕といった必要事項を登録いただくことで、機構のアドバイザーが被災状況の聞き取りや事業再建に向けたアドバイスを実施し、地元以外の工事業者とのマッチングを行う。

建物工事や設備修繕などの各項目で、県内で延べ約150社、隣県を含めると延べ約350社の登録をいただいております。今後も、中小機構と連携し、対象業者を増やしていきたいと考えています。

被災事業者の皆さまには、このサイトをご活用いただくことで、早期のなりわい再建を進めていただきたい。

- のと里山空港で整備を進めている、全国の自治体からの応援職員用の仮設宿泊所については、第1弾として、4月末までに88室、146人分で運用を開始しているが、今般、第2弾として現在工事中の200室、200人分についても、今月30日から運用を開始できることとなった。

また、のと里山空港エリア周辺には、飲食できる場所が少ないので、空港の第1駐車場の一角に仮設の飲食店舗を整備する予算を今議会に提案しており、早ければ10月頃に運用を開始する予定である。

2. 会議最後の発言

- 6月議会の論戦が本日終了し、最終日となる明後日6月20日には、追加の震災対策を盛り込んだ補正予算が採決される。

可決いただいた暁には、速やかに執行することが必要である。全庁一丸となって取り組んでほしい。

- 加えて、創造的復興プランについても、今議会でいただいた様々なご意見を踏まえ、速やかに最終とりまとめを行ってほしい。
- 輪島港の漁船だまりの浚渫については、今月末までに完了する見込みであり、権限代行していただいた国土交通省に感謝したい。

先ほど輪島市長から要望があったが、船揚場前の追加の浚渫についても、早期の漁業再開に向けて不可欠であり、県としても、国土交通省にお願いしたいと考えている。

- 1.5次避難所については、避難されている方が相当 程度減ったことから、今月中にメインアリーナを閉鎖し、サブアリーナに集約することとなっている。メインアリーナから移動する避難者の皆さんに対しては、個別に丁寧な説明を行ってほしい。